



# 地域の形成過程から新たな建築・地域計画を構築する研究

Keywords: 地域計画、地域形成史、建築計画、林業・木材産業、事前復興、紀伊半島

## ● 研究概要

私たちが日々暮らす環境は、過去からの営みの積み重ねによって形成されています。地域の建築や文化、生業、景観等の形成原理を丁寧に読み解き、現代の建築計画や地域計画に活用するための研究をしています。



所属 人間環境デザイン工学科  
建築・地域計画研究室

助教  
氏名 林 和典  
Hayashi Kazunori

## ● 研究テーマ

### ・木材生産構造の変遷からみた林業・木材産業地域の形成過程

林業・木材産業の視点から地域の形成過程を読み解き、地域計画(地域振興や産業地計画)や建築計画(地域産材を活用した住宅や災害時の木造応急住宅)に活用する方法論を研究しています。内容として、紀伊半島で、地域産材の生産を担う中心となる事業者や組織を発見し、各事業者が協力し合いながら産業を発展させてきた原理を明らかにしました(論文1,2、図1)。奈良県十津川村産材を利用した仮設休憩所の設計・製作・各地への展開を行い(論文3、図1)、地域産材を災害時に木造仮設住宅へ利用する方法についても検討しています(論文4、図2)。

### ・地域形成史からみた減災計画や事前復興計画の提案

日本の農山漁村では、各地域の気候風土に合わせた災害対策を伝統的に行っています。集落の持つ災害に対する知恵を収集し、現代の建築・地域計画への活かし方を模索しています。例えば、熊野川流域の集落の研究では、母屋の他に裏山に「アガリヤ」という倉庫兼避難所を持つ集落の調査を行い、集落自らが避難所を持つことや、日常時から非日常時の行動を想起させることの重要性を明らかにしました(書籍1、図3)。

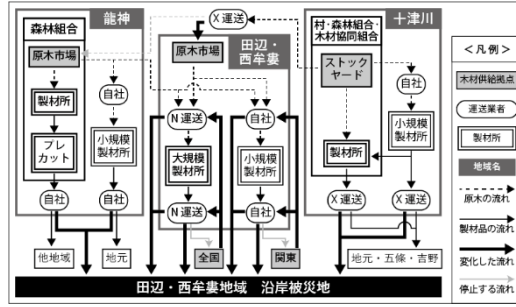


図2. 田辺・西牟婁の被災時の木材供給モデル図

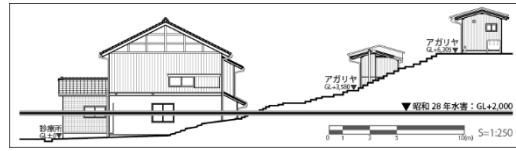


図3. アガリヤのある集落の断面図

## Material and Architecture Process Map — Being a Player Using Wood —

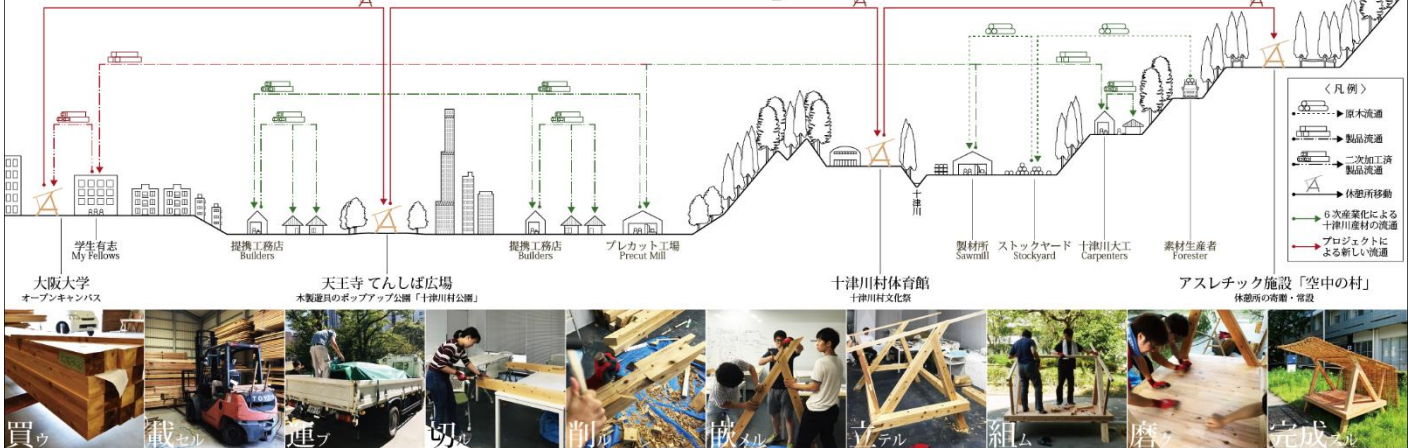


図1. 木材生産構造のモデル図と木造仮設休憩所の製作過程

## ● 論文・特許等

- 【論文】
1. 奈良県吉野郡十津川村の林業・木材産地の形成と「林業の6次産業化」の成立要因 —組合と自治体を中心とした資産継承と事業者間取引の変遷の考察—, 日本建築学会計画系論文集, 88(805), pp.966-977, 2023年
  2. 木材生産構造の変遷からみた地域における林業・木材産地の形成 —和歌山県田辺における山長商店を中心とした事業者間の取引関係の考察を通して—, 日本建築学会計画系論文集, 87(791), pp.100-110, 2022年
  3. 山林と都市を繋ぐ休憩所, 日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東), (2020), pp.360-361, 2020年
  4. 南海トラフ地震に対応した木造仮設住宅供給システムの構築に向けた研究 —紀伊半島における木材の生産と取引関係の考察—, 住宅系研究報告論文集, 18, pp.229-238, 2023年
- 【書籍】
1. 事例でみる 住み続けるための減災の実践 暮らし・コミュニティ・風景を地域でつなぐ手法, 学芸出版社, 2024年